

高校生が ふるさと高校生議会



11月13日、上ノ国高校の生徒が町政への提案や質問を行う『ふるさと高校生議会』が開催され、2年生14名が参加しました。

議会では、代表として議員役となった6名の生徒が登壇し、『旧JR江差線跡の利活用による地域の活性化』『地元の人を呼び戻すイベント』の立案、『雇用対策』といった提案や質問が行われました。

現在、全国的な人口減少が社会問題化し、地方から活力が失われていますが、高校生から出た発言は、いずれもこうした状況を改善しようという視点に立ったものばかりで、高校生も住民のひとりとして、本町が直面している問題を肌で感じ、どうすべきかを考えている様子でした。

付加価値を付けて市場へ 活〆実演会を実施

11月10日、漁業増収の施策の一環として、ひやま漁協上ノ国支所主催による『活〆実演会』が汐吹漁港にて行われ、約40名が参加しました。

これは、魚介類の出荷の際、血抜きや神経〆など、鮮度を保つ一手間を加えることで付加価値をつけ、漁業収益の安定や増収へと繋げようという取組みで、名古屋中央卸売市場活魚部門で業務経験があり、事業でも活魚の取扱いのある俵谷口水産専務の谷口隆さんを講師に招き、活〆の実演を交えて行われました。

参加者からは「活〆をしてはいたが、市場のやり方が見れてよかった」「付加価値をつけて出荷することとはこれから大事だと思う」という言葉もあり、実演を真剣な表情で観察しながら、説明に耳を傾けていました。



冬を迎える前に注意喚起 中高生による交通安全運動



10月26日、冬を前に交通安全意識の啓発を図ることを目的に、町内中高生22名による「秋の交通安全街頭啓発活動」が北村コミュニティセンター前にて行われました。

冬は視界不良やアイスバーンなどで事故が発生しやすくなることから、生徒達は街頭での声かけを通して交通安全を訴えていました。本町は、今年9月に交通死亡事故ゼロが連続2500日を達成するなど、一人ひとりの注意によって交通安全が実現されています。

この記録を一日でも伸ばせるよう、生徒達の願いと同様に、冬の安全運転を心がけましょう。

いきいき過ぎずスポーツの秋 高齢者スポーツ大会開催

11月2日、上ノ国町老人クラブ連合会（高橋廣会長）主催のもと、『第37回高齢者スポーツ大会』が開催され、約100名が参加しました。

毎年、高齢者の交流と健康増進を目的に開催されているこの大会ですが、各地区対抗ということもあり、同じ地区で育った方々は地域の強い絆で各種競技に臨んでいました。

競技は、紅白玉入れやボーリングなど楽しみながら体を動かせる内容で、特に白熱した『むかで競走』では、十人一組がかけ声と共に息のあった前進でチームワークを発揮し、周囲で見守る方々は声援や拍手を送るなど大変盛り上がっていました。

